こゝの労働者にも當てはまるようである。そこで従業員は「何とか暮しが樂になるように」とどんどん他工場に移動して居り、産業厚生時報によれば「去る六月七日から十月二十九日の間、最も労働者の移動の少ない時期においてすら一、〇〇八名」が移動したとのことである。かゝる甚だしい移動現象は勞務管理の不備を的確に表現してゐると共に他方で雇入制限令の適用されないことも原因となつてゐるようである。

ともあれ、労働移動は労働能率と密接な關係を有して居り、移動率の高い程労働能率の低下することは言ふ迄もない。したがつて、これに對して個別資本は能率低下を防止すべく移動を極力くひ止めようとするのは必然である。こゝにおいて同社も亦移動の防止に腐心するところがあり、その一方策として労働者一人を世話した場合には世話料として一人につき幾何かを世話した労働者に對して支給する等のことを行ひ、また労働者の低賃金に對する不公平を緩和し旁々移動防止をも含めた賃金の値上をも考へてゐた様である。